

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4070501541, 医療法人社団天翠会).

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL.

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 公益社団法人福岡県介護福祉士会).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき入居者様に安心・安全・安楽に過ごして頂ける様に支援させて頂いています。精神面には特に心を配り、寄り添うケアを目標とし職員一同、日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、団地や一般住宅に囲まれ、静かな環境の中にある。玄関先の花壇には季節の花が植えられ、事業所の中にはチューリップや雛飾りがあり何処に居ても季節を感じられ和やかである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (radio buttons), and Achievement Details (numbered list).

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼に参加している職員全員で唱和しており、理念に基づき日々の援助を行っている。	毎日のミーティングの中で、職員全員で理念を唱和し理解、周知することが出来ている。理念に添わない場面を見た時にはお互い声掛けを行い職員間で確認することが出来ている。今後、目標を掲げ「安心、安全、安楽」とは何かを改めて考え、より良いケアに努めていく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナウイルス感染症拡大防止の為、地域の行事に参加する事ができなかったが、地域の清掃活動のみ職員が参加させて頂いた。	以前は市民センターでの餅つきに参加するなど町内の行事に参加することが出来ていた。現在はコロナ禍で日常的な交流は難しい状況だが、地域との交流が途絶えないよう事務長が代表で地域の掃除活動に参加したり、近くの川沿いの桜木の落ち葉を掃除するなど継続した交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民センターの行事を通し、地域の方との交流を図っているが、今年に於いてはコロナ禍につき行事への参加は出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍につき運営推進会議は令和4年1月、3月、5月、11月実施、7月、9月、令和5年1月中止書面会議で報告を行う事があったが、聞き取り等を行いご意見を聞き入居者の皆様のホームでのご様子を含め報告を行い意見交換を行い今後の課題とし役立てている。	地域住民代表、市民センター館長、民生委員、地域包括支援センター、管理者、職員が参加し2ヶ月1回、運営推進会議を実施しているが参加者限定となっている。危険防止のため使用する床センサーや赤外線センサーは身体拘束に当たるのではとの意見を頂き、検討、見直しサービス向上に努めた。	運営推進会議は数多くの方の意見が出る場なのでより良いサービス向上につなげるためにも、利用者や家族の参加について検討することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センター職員・市民センター・地域代表・民生委員に参加頂きホームの取り組みのご報告を行い様々な提案を頂いている。	行政担当者より研修会での内容を勉強会として提示して欲しいと依頼があり実施した。コロナ禍でも出来るだけ外出できるよう心掛けるようにと提案があり、近くのお地藏様までお参りに行くなどより良いサービスに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に二回の研修会を行い、3か月に一度の委員会の会議を開催し、議事録を掲示板へ貼り回覧し、定例会議にて再度伝達、全職員に周知し、入居時にご家族様にご説明ご理解を頂いている。	法人内で研修会を実施、不参加の職員は研修会の資料で学び感想を記述し、提出して伝達研修としている。利用者への声掛けの仕方が拘束にならないように常に考えながらケアに取り組んでいる。玄関は夜間帯以外は開錠している。2階入り口は利用者の安全のため施錠されているが解錠に向け検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修会を行い、新人職員に対してはオリエンテーションの際にマニュアルを通し説明を行っている。また、マニュアルは全職員の目に留まる場所に設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を利用している方もいらっしゃるが定期的な後見人様の来訪もあり職員も身近に感じており、制度についてのファイルも目に留まる場所に設置している。	年1回、法人内で研修を実施している。権利擁護制度を利用されている方が居られ、職員は制度について理解することが出来ている。制度について契約書に記載しており利用者、家族に説明し必要な方が活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は書面で説明を行い、理解しているか確認を行いながら契約を進め、疑問点などが無い、あれば都度説明し理解して頂ける様にしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度の満足度アンケート調査を実施し、家族の意見を参考にし、改善報告を毎月の「みどりのたより」でご家族へ報告、職員にも改善の周知をしている。R4年11月実施済み	今年度は、11月にアンケート用紙を郵送し家族から意見を頂き対応をしている。コロナ禍で面会が出来ないためラインでの状況報告の希望があり実施している。受診後の薬剤情報提供の申し出があり、毎月の「みどりのたより」に同封している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会の中で報告、意見交換を行い、日頃より職員とのコミュニケーションを図り、その中での意見や提案は聞き入れ反映させている。	職員は管理者、法人と話しやすい関係にあり何時でも相談できる環境にある。ベッドサイドレール1本では介助が難しい利用者に対し手すり1本追加したり、L字型の手すりを追加してもらったりと意見を反映してもらった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状態を事務長へ報告し、事務長より上司へ伝達して貰い、功労勤務者には表彰制度があり、該当者には理事長より表彰状と贈答品がある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別・年齢・経験での排除は行っていない。個々の長所や能力を生かし発揮できるよう係りや担当を持ち、達成感や遣り甲斐に繋げ仕事楽しさを見いだせる様配慮し、人員に余裕がある時は職員と相談し興味のある研修に参加出来る様にしている。また、資格習得も勤めスキルアップを目指す様にしている。	職員は採用時にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除されることはない。休憩時間や有給休暇取得、自己実現の権利は確保されており、私用による急な勤務交代などもお互いに協力しながら気持ちよく勤務する事が出来ている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定例研修会で、年に一度研修会を行い、研修後に人権についての検討会を行っている。	年1回の権利擁護制度の研修と一緒に人権についても研修を行い、人権教育や啓発活動に取り組み、利用者の人権尊重に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内のファイルが全員の目に留まる場所にあり見られる環境にある。勧めたい研修は声をかけ人員に余裕のある時に行ける様に心がけている。また事例発表や事故の検討会等は都度行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加する事で情報交換や交流が行える。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様からこれまでの生活環境を聞き情報収集を行い、安心できる環境づくりに心がけている。ご本人様からの聞き取りが難しい場合は、家族・ケアマネージャー情報収集を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話の問い合わせや、見学来訪時にご家族様の困っている事や思いを丁寧に傾聴し、話易い雰囲気作りと対応に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の訴えや状態、ご家族様の意向を確認し、ご入居以降こまめなご様子の報告を行い、状況に応じた対応でご家族様と相談しながら考えている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中の家事作業等を一緒にする事で、自分の役割を見つけて頂く様に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子をこまめに報告、月に一度のみどりだよりもお伝えしている。変化が生じた際は、カンファレンスを行いその結果、今後の方向性について、ご家族様の協力が必要な時は協力して頂いている。電話でご本人と家族が会話出来るようにし、個別の環境づくりを職員と話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄使用していた馴染みの物は自宅より持参し落ち着ける居室の環境づくりを行っている。友人からの電話、ご家族との電話会での会話をしている。	以前は馴染みのある理美容院に行き髪を染める方も居られた。現在はコロナ禍で外出や面会などの関係継続が難しい状況である。毎日おやつを持って来られる家族が居られ継続できるよう支援している。今後は年賀状の代筆などの検討を考えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格等を考慮し、席決めを行っている。また状況に応じてレク等の時は楽しめる方同士同じテーブルになる様配慮し、お世話好きな方が発揮出来る様、お席の配置を行い、お互いに会話に参加出来るよう職員が会話を繋げている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍で面会が出来ない状況なので、入院等で一時ご退居となった方には、ご家族に連絡し病状等の様子を伺い、ご家族の健康にも心を配りご相談などにも応じている。病院の連携室にも連絡し今後の状況の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のご意向に関しては、日々の会話の中は勿論、担当者会議で意向は聞き把握し、ご意向に近づける様努め、日々の生活行動、祈りの場所をご家族と共に考え環境を整えている。	利用者がどんな時話をしてくれるのか、場所や対応する職員等を把握している。家族の力も借りながら、日付の質問や注意を引きそうな事柄を話しかけ、職員間でも共有出来る様にしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人より今迄の生活歴や趣味をお聞きし、又在宅のケアマネの情報も入れ生活歴の把握をしている。ご家族様にもホームが準備した用紙に記入して頂き、援助に役立てている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今迄の生活習慣の情報収集を行い、一人一人の方の有する力を把握し、無理のない生活リズムで過ごして頂く。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議等でのご本人・家族・担当者からの意見を基に、ご本人の意向・状態を見極めた上で介護計画を作成している。定期的なモニタリングを行い課題等を再確認している。	介護計画立案の為の情報収集は、利用者や家族、担当職員から意向や意見を介護支援専門員が聞き取りをしている。介護計画案は家族が確認後に作成している。変更点はスタッフルームに掲示し、個々サインをしている。定例会終了後グループミーティングを実施し、職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた個別ケアを行い記録に残している。モニタリングを通じて介護計画の見直しを行い、申し送りノートを活用し情報の共有、ケア内容の周知・徹底を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスと連携し、イベント開催時は見学参加している。また、デイサービスのホールを借り、ホームの家族交流会のイベントを開催している。コロナ過で現在、見合わせの状況ではあるが、1階、2階ユニットの交流、お茶会や施設内の季節行事を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年の3月より、コロナ禍につき地域との交流は中止しているが、コロナ禍前は、ふれあい昼食会・夏祭り・文化祭には作品の展示していた。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時にかかりつけ医に関しての月1回の往診があり医療との連携を図っている説明を行い、かかりつけ医の選択に関してはご家族の希望の医療機関を受診して頂いている。	事業所は母体が病院でもあり、入居時には医療連携体制の説明をしている。母体病院の紹介で入居する方もいる。他の病院を受診する際は、事業所の看護師が受診内容を確認し速やかに連携が取れる様にしている。歯科診療も一ヶ月に一回訪問している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタル表の記入で発熱、排泄、血圧の変動等を看護師へ報告があり、必要時掛かりつけ医へ看護師より連絡により指示を受けて支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、ホームよりサマリーを作成し情報態報告。また、病院からの問い合わせには迅速に対応し、ホームよりもSWや担当NSへ現状の問い合わせを行い早期の退院が出来る様支援する。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の方針に関しては、書面を通し説明を行ってご家族の意向を確認する。ホームで出来る事に関しては、具体的な例を挙げ説明を行っている。状態変化が生じた際は都度説明し、担当者会議を開き今後の方針を家族の意向に沿う様配慮している。	入居時に看取りの説明をしている。重度化や医療行為が必要な利用者については、看護師以外行えない事もあり、現状は救急搬送している。医療行為が必要ない看取り期の支援については、職員間で協議の上、検討していく意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な急変時の対応のマニュアルを直ぐ目に留まる場所に準備しており、定例会の研修課題に挙げ訓練し備えている。年に一度救命救急(AED使用法)の講習会を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災避難訓練を年に2回実施している。(内1回は夜間想定)マニュアルに沿った避難ルートで、安全かつつやかな誘導が出来る様訓練している。また、当日を運営推進会議とし、災害時の対応・連携について話し合いを行っている。	避難訓練は、全職員、全利用者で実施している。災害時に備え建物は、整備点検を行い、職員は災害対策マニュアルを始め、職員緊急連絡網、避難場所の確認、避難時のシミュレーションを周知している。保管書類は計画及び結果報告書や訓練時の写真も添付している。備蓄品は事業所内に非常食や米、飲料水は数日分確保している。	災害は火災のみならず、想定外に起こりうることから、特に夜間帯は季節や、天候等を考慮し、安心して利用者を守る為にも、近隣の協力者や自治会の応援を得られる体制作りを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を大切に、常に言葉かけや対応等について職員同士意識しており、排泄・入浴時は不要な肌の露出が無い様、ひざ掛け等を個別に使用しプライバシーに配慮している。研修会で検討会を行っている。	基本「利用者の嫌がる事はしない」を心掛け、尊厳やプライバシーに関する事柄は研修会でも全職員が周知している。トイレ誘導時は耳元で話しかけ、拒まれる場合は、無理強いすることなく一緒に歩きながらの対応などを工夫している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言動などから意向を汲み取れる様常に心掛けており、意思疎通が困難な方は、ご家族様の要望希望から共に検討する。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活のペースに配慮し、個別に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度のビューティーヘルパーの訪問があり整髪を行っている。ご家族様に協力を頂き、洋服を必要時購入をお願いしている。衣類は自分で選ん頂いたり、同じ服にならない様、衣類の自己選択の配慮を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は業者に委託している。盛り付けや食事前後のテーブル拭き、食器洗い、お盆拭き等の生活機能維持の為に職員と共にして頂いている。	敷地内の厨房で委託業者が調理している。日曜日と正月や行事日は、好みも聞きながら職員が調理している。毎月の誕生会は職員の手作りケーキ等でお祝いする。利用者の身体状況などを考慮しながら声かけて職員と一緒に準備をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量のチェックを毎回行っている。特に水分量に注意し、脱水症の予防に努め、体重増減、症状に合わせた摂取量を見ながら支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。ご自分で出来る方は自室の洗面所で実施、ご自分で困難な方は介助にて行い清潔保持を行っている。月に一度歯科往診を受けている。義歯の方は、夜間預かり洗浄液に浸け消毒実施。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄状況を把握しており、自立の方はご自身のタイミングで排泄され、時間毎にお声かけをし誘導、またリハビリパンツを使用されている方も排便時はタイミングを見計らいトイレでの排泄の支援を行っている。	利用者のその日の体調や、排泄チェック表を元に声をかけトイレに行っている。出来るだけ布パンツとパット使用の状態を維持している。失敗しても優しく声掛けし、安心して貰える様な支援を心掛けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、こまめな水分摂取の促しや、自然排便の促せる様、起床時の牛乳提供や個別にヨーグルト等、おやつに果物の工夫を個別にして自然排便の促しを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4回(月・水・金・土)入浴支援を行い、お1人で入浴されたい方は、ご本人の意向を尊重し時間の配慮と安全な入浴を支援し、体調によっては清拭や部分清拭、シャワー浴を行い、肌着衣類の交換を行い整容、清潔保持の支援をしている。	行事や家族の面会等を考慮して曜日を決め、午後から入浴支援をしている。職員と利用者が一番ゆっくり会話できる場所でもあるので、一人ひとりの入浴時間を大切に支援している。入浴を拒まれる場合も、廊下を散歩したり、対応する職員を交代しながら支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個々の体調や生活習慣に合わせて休息時間はお1人お1人個別に支援している。不眠に対しては、日中の過ごし方や臥床時間の配慮、医療との連携により睡眠時間の確保が出来る様にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週に一度、薬剤師の配達日により、看護師がチェックを行い処方変更時は薬剤師より口頭、専用紙に記入で情報共有を行っている。職員には申し送りノートに記入周知し、一定期間の状態観察を記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の際に、生活歴等をご家族よりお聞きし、ホームの生活の中での家事作業、レクリエーションを通して楽しみや役割が見つけれられる様にしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、敷地内の広場、(お地藏さんお参り)に出かけている。また、会話の中で行きたい場所等の話がでた場合は、外出計画を立てて外出支援を行っているが、現在はコロナ禍につき外出は中止しているが、地域の回覧と一緒に次の順番お宅まで職員と一緒にやっている。	利用者が自由に外出できる様、玄関は夜間以外は開錠している。全員参加のドライブを計画したが、コロナ禍で中止となり、家族との外出も控えるになっている。中庭に植えている野菜の水やり、収穫時には職員が利用者を誘って一緒にやっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意向に沿って、買い物支援を行い、金銭を預かっている事を聞かれる場合はその都度、預かり用紙でお伝えしたり、財布の確認をして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より電話をかけたいとの要望時は、電話をかけて頂いている。また、ご家族や御親戚・友人からの手紙は、ご本人様に渡し要望によっては、代読する等支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに季節のクラフトで作成した作品や行事の際に撮影した写真を掲示し、好きな音楽を流し居心地の良い環境作りが出来る様工夫をしている。	中庭はテーブルや椅子、植物の鉢等を設置してあり、談話や外気浴を楽しめる空間になっている。四方からの日差しを取り入れ、建物全体が明るく暖かい。空調設備も整っており、廊下の壁には雛人形や書初めを飾り季節を感じ取れる工夫がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様個々の性格や生活動線を考慮したテーブル席の配置を行っている。入居者同士会話が弾む時間をもてる様、環境作りと配慮を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際に、ご家族様と相談し、ご自宅より持ち込みたい使い慣れた馴染みの品等を置く事で居心地の良い環境づくりを行っている。また、ご自身作成したクラフト作品や書道等を飾る事で自分らしい居室の環境作りをしている。ご家族の写真を置いて頂き、写真から会話を引き出している。	各居室の入口は一階は花、二階は鳥の絵を飾っている。部屋は間取りが広く、馴染みの家具や調度品を持ち込んだり、家族の写真や作品を飾ったりしている。空調が整っており、掃き出し窓の先はテラス風の通路になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、車椅子や歩行器等が移動する為に十分な広さを確保しており、個々のADLに合わせ見守り介助を行っている。		